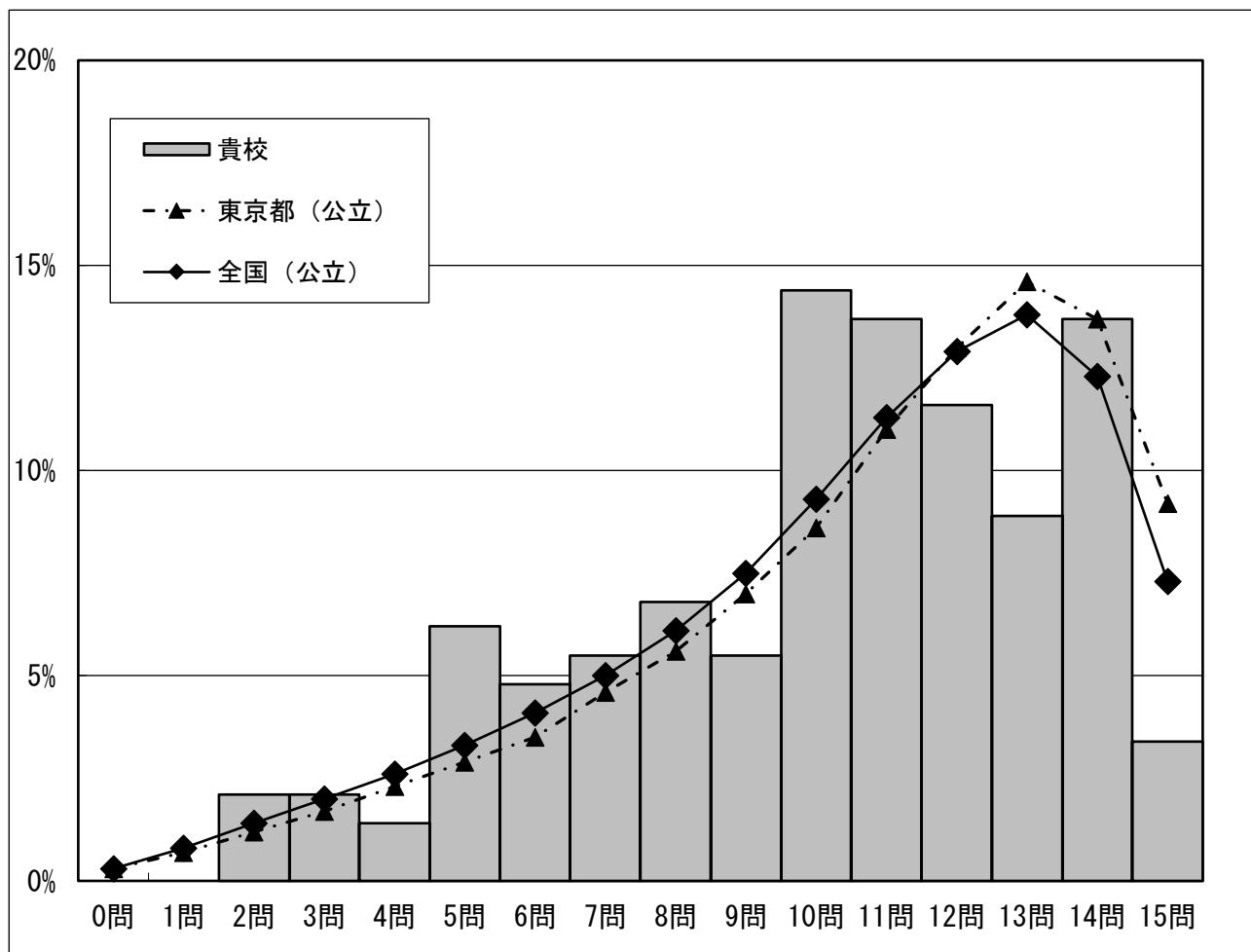


令和5年度 全国学力調査（中3対象）の結果より

国語



学習指導要領の「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」の平均正答率において、「知識及び技能」では(1)「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「思考力・判断力・表現力」では「読むこと」の領域で全国平均と同じぐらいの正答率である。

出題の趣旨として「目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる」、や「文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる」において正答率が高くなっている。

一方、「思考力・判断力・表現力」の「書くこと」や「現代語で書かれた『竹取物語』のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く」での正答率が低くなっている。

全体的に「知識・技能」の問題の正答率が低くなっており、問題形式も短答式、記述型の正答率が低いことを踏まえると、基礎知識の定着が甘いことがわかる。日々の授業から小テストを行い、繰り返し知識が定着するように授業を進めていく。